

## 2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 14 日

所属	基盤教育機構	職名	助教	氏名	古宮 望美
研究課題	美容整形手術を繰り返す患者の容姿に対する認識とその行動の背景に潜む要因の検討				
研究キーワード	行動科学, 認知科学	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	3. すべての人に健康と福祉を	5. ジェンダー平等を実現しよう	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	12. つくる責任 つかう責任	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>COVID-19 の、新しい生活様式の定着に伴う様々な変化が人々を襲った。特にウェブ会議ツールの利用頻度が増加したことで、自分の動いている姿や顔を見る機会が増えたことから特に若者の顔に対する自意識に変化がもたらされた人が多く存在した。2022 年度の研究では、パンデミックに由来して美容整形手術を受けた、あるいは受けよう検討したことはあるかを中心とした容姿に関する自意識と行動に関するアンケート調査を実施した。その結果、被験者らの考えには性別間で有意な差が生じていたことや、顔だけでなく身体イメージに関する意識も変化していることを明らかにした。報告者は、美意識の追求と容姿に対する過度な自己否定は異なることを以下に示す国際学術論文・国際会議で報告した。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>[査読付き国際学術論文]</p> <p>A study of Japanese university students influenced by the Covid-19 pandemic and their awareness with their one's own face. <i>International Journal of Cognitive Research in Science, Engineering and Education (IJCRSEE)</i>, 10(2), 17-26. <a href="https://doi.org/10.23947/2334-8496-2022-10-2-17-26">https://doi.org/10.23947/2334-8496-2022-10-2-17-26</a></p> <p>[査読付き国際会議 proceedings]</p> <p>New Lifestyles Due to COVID-19 and Behavior of Young People Attending Universities in Japan. <i>Procedia Computer Science by Elsevier</i>, 219(2023), 178-183. <a href="https://doi.org/10.1016/j.procs.2023.01.279">https://doi.org/10.1016/j.procs.2023.01.279</a></p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>なし</p> <p>【学会発表等】</p> <p><i>International Conference on ENTERprise Information Systems (CENTERIS 2022)</i>にて論文発表と口頭での報告</p> <p>3. 主な経費</p> <p>個人研究費の利用による英文校正の支払い、学会参加費の支払い、ソフトウェアライセンスの購入</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>日本私立学校振興・共済事業団 私学振興事業本部 2023 年度若手・女性研究者奨励金 採択</p>					

研究課題：コロナの流行が日本の若者の容姿に対する意識に与えた影響の解明

KES2023 Conference Program committee に選出 (KES2022 の発表成果を受けた結果)

(本文は2ページ以内にまとめること)